

85  
X

<ノーキャッチ>  
打者が右翼線上に打ったフライを野手がグラブに触れて落球した。野手の両足は完全にフェア地域にあったが、グラブに触れた位置はファウル地域であった。審判は**フェアボール**を宣告した。  
*足の位置でなく、ボールに触れた位置で判断すべき。*

86  
O

<セットポジションの投手>  
走者のいるとき 投手板上で両手を合わせた投手が、両手を離してから軸足を投手板より後方に外した。審判員は**ボーク**を宣告した。  
*セットを解くヒモ → 軸足を外してから両手を離す。(逆はOK 同時にOK. 違反すればボーク)*

87  
X

<ベンチへの踏み込み>  
無死走者三塁で 打者は三塁ベンチ近くにフライを打った。三塁手はフライを捕球したが、走ってきた余勢でベンチ内に踏み込んだ。審判は、捕球を認め打者はアウト。ボールデットとし三塁走者に一個の進塁をさせ、1死無走者、得点1で再開した。  
*ベンチに踏み込みは捕球 → 正球の捕球でOK*

88  
O

<ベンチへの踏み込み>  
無死走者三塁で 打者は三塁ベンチ近くにフライを打った。三塁手はフライを捕球したが、走ってきた余勢でベンチ内に踏み込んだ。審判は捕球を認め打者はアウト。三塁手が捕球後ベンチに踏み込んで倒れなかったのでボールインプレーとした。(No. 87の通り)

89  
X

<スクイズ時の反則打球>  
1死走者三塁でスクイズ。投手はアウトコースを外して投球した。三塁走者は本塁近くまできていたので、あわてて片足を本塁ベース上に踏み出して打ち、打球は三塁前に転がった。審判員は、三塁走者をアウトにし、ボールデットで投球はノーカウントで再開した。  
*ベンチにいる選手に交わらばから捕球 → 認められず*

90  
O

<スクイズ時の反則打球>  
1死走者三塁でスクイズ。投手はアウトコースを外して投球した。三塁走者は本塁近くまできていたので あわてて片足を本塁ベース上に踏み出して打ち、打球は三塁前に転がった。審判員は、反則打球で打者をアウトにし、ボールデットとなって走者は三塁に戻し、2死三塁で再開した。  
*打者アウトに統一 (No. 10と同じ) 走者三塁に戻し、2死三塁で再開。 No. 10 及び No. 89の通り*

91  
X

<守備妨害>  
1死一塁で 一塁走者が二盗のとき、捕手の送球を打者が妨害したが、一 二塁間でランダウンプレーとなり、野手が悪送球する間に走者が三塁に達した。審判員はランダウンプレー中に悪送球となったのでボールインプレーとして 一塁走者の三塁進塁を認めた。  
*どの走者も進塁できず (守備妨害時の占有に依存)*

92  
O

<守備妨害>  
1死一塁で 一塁走者が二盗のとき、捕手の送球を打者が妨害したが、一・二塁間でランダウンプレーが始まるうとしたところで、「タイム」を宣告して、打者を妨害によるアウトにして走者を一塁に戻し、2死走者一塁で再開した。

93  
O

<投手の悪送球>  
走者一塁、投手板上から走者をアウトにしようと試みた送球が、悪送球となりスタンドに入った。審判員は走者に一個の塁を与え、走者二塁で再開した。

94  
X

<投手の悪送球>  
走者一塁、投手板上から走者をアウトにしようと試みた送球が、悪送球となりスタンドに入った。審判員は走者に二個の塁を与え、走者三塁で再開した。  
*野手の悪送球のときに走りに与える*

95  
O

<フォースアウトの定義>  
1死一・三塁で打球はライトフライ。三塁走者はタッチアップから生還したが、飛び出していた一塁走者はライトからの返球で一塁アウトになった。審判員はアウトの前に三塁走者の生還の方が早かったので得点を認めた。  
*フォースアウトは早く、一塁アウト (第3アウト) としてもフォースアウトは早。一塁アウトは早くそのまゝ得点になる。三塁は遅い。第3アウトか。フォースアウトのとき、打者が一塁に生還する → 得点の認められぬ*

96  
X

<フォースアウトの定義>  
1死一 三塁で打球はライトフライ。三塁走者はタッチアップから生還したが、飛び出していた一塁走者はライトからの返球で一塁アウトになった。審判員はアウトの前に三塁走者の生還の方が早かったが**フォースアウト**として得点を認めなかった。

97  
O

<フォースアウトの定義>  
1死一 三塁で打球はサードゴロ。5-4-3のダブルプレーが成立した。審判員は三塁走者は、ダブルプレー成立前に本塁を駆け抜けたが得点を認めなかった。  
*「三塁アウト」に当てはまる。*

98  
O

<オブストラクションと守備妨害>  
走者二 三塁。二塁走者が投手の牽制で二・三塁間で狭撃された。走者が二塁に帰ろうとした時、球を持たない遊撃手と衝突した。審判員はオブストラクションを宣告し二塁走者を三塁へ、三塁走者は押出されて本塁へ進めた。

99  
O

<オブストラクションと守備妨害>  
打者が長打し一・二塁間で二塁手に妨害され審判員はオブストラクションを宣告したが、打者走者は三塁に走りアウトになった。審判員は三塁への進塁は明らかにありだと思われたのを欲張ったとしてそのままにした。  
*走者妨害は打者は占有した審判員判断した進塁が完全進塁権がある。それを越えて進んでアウトにすれば、それは生かされる (7.06(b) 注)*

100  
X

<投手の交代>  
一回の表、投手が第一打者に三球続けてボールを投げた所で守備側の監督が投手の交代を申し出たので投手交代を認めた。  
*打者一人を完了するまでは交代できない*

101  
O

<打者走者>  
無死満塁。打者は投ゴロを打った。投手は本塁に送球して 三塁走者をフォースアウトにした。捕手は素早く一塁に送球してダブルプレーを狙ったが、ファウルラインの内側を走っていたランナーの背中にその送球が当たってしまった。一・二塁走者はその時には、それぞれ次塁に達していた。審判員は、打者の守備妨害で2死 走者二・三塁で再開した。

102  
X

<ファウルチップの定義>  
ファウルチップはファウルボールである。  
*空振りと同じ扱い (No. 2) 1塁ランナーは2死。2塁ランナーは3死を占有してはと判断する*

103  
X

<インフィールドフライの定義>  
1死一・二塁で打者はバントを企てて、三塁手への飛球となった。審判員は三塁手が捕球体制を取ったところでインフィールドフライを宣告した。  
*バントの打球にはインフィールドフライを適用しない。*

104  
X

<インフィールドフライの定義>  
1死一・三塁で打者の打球は三塁手への飛球となった。審判員は三塁手が捕球体制を取ったところでインフィールドフライを宣告した。  
*打球が上がってすぐは宣告しない。普通の守備行為で捕球できることを判断してから宣告。(落下点に入らなければ、捕球体制がとらなからとれない)*